Report
［査読無し］ 報告

# 狩猟採集民ムラブリ児童の行動特性に関する研究
## —客観的評価からみた民族誌の記述の問題—

A study of the behavioral characteristics of hunter-gatherer children in Mlabri:
Problems in the description of ethnography from the perspective of objective evaluation

下田 敦子[1]，Narit Pradit[2]，Sataban Sriskhontamit[2]，Rakhanaa Pinmuang[3]，大澤 清二[1]
[1] 大妻女子大学人間生活文化研究所
[2] School Health Education Research Networks in Asia, Chiangmai, Thailand
[3] Department of Local Administration, Ministry of the Interior, Nan, Thailand

Atsuko Shimoda[1], Narit Pradit[2], Sataban Sriskhontamit[2], Rakhanaa Pinmuang[3], and Seiji Ohsawa[1]
[1] Institute of Human Culture Studies, Otsuma Women's University, Tokyo, Japan
[2] School Health Education Research Networks in Asia, Chiangmai, Thailand
[3] Department of Local Administration, Ministry of the Interior, Nan, Thailand
*Corresponding author: 1, 12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-8357 Japan

キーワード：ムラブリ，ピートンルアン，行動特性の評価尺度，ベルナツィーク，狩猟採集民
Key words：Mlabri, Phi tong luang, Scale for rating children's behavioral characteristics, Hugo Adolf Bernatzik, Hunter-gatherer

**抄録**

本研究では狩猟採集民ムラブリの児童の行動の特徴（気質，性格を含む）を計量的方法によって記述した．行動評価の評価尺度の構成はBernatzik, H. A.の民族誌（1958）を基本資料とし，共同研究者間の協議を経て38項目で構成した（Shimoda et al., 2023）．評価者としてムラブリの6歳～11歳の児童の行動を日常的に長期間にわたって観察してきた立場の成人48名（ムラブリ人19名，モン人8名，タイ人14名，ムラブリの研究者7名）が評定にあたった．これらの評定結果を因子分析したところ合理的な解釈が可能な主要5因子を抽出した．それによればムラブリ児童は「すばしこく」「走るのが得意」などのグロスモータースキルと「指先が器用」などのファインモータースキルなどの行動体力に優れており，「怪我をしにくく」「病気にかかりにくい」という防衛体力にも優れていた．さらに「友だち同士の仲が良い」「グループで行動するのが得意」「家族を大切にする」などの社会性の発達に関連した評価が高かった．性格的には「我慢強い」「優しい」「色々なことに興味をもつ」という特徴が見られていた．一方で「飽きっぽい」という一面も見せ，「虫や動物が好き」「森や川が好き」で自然を愛し，「競争心が少ない」などの平和的な特徴をもつ子ども達であることが明らかとなった．これらは第1因子に集中して高い負荷を示した行動特性でもあった．さらにこれらの特徴ついては，評定点としても中間値の3点を越えて，2.5点以上の高得点であった．これらの解析からムラブリの児童はかつてBernatzik, H. A.が記述した退嬰的で愚かな未開人ムラブリの子ども版ではないことは明白であった．

## 1．狩猟採集民児童の行動研究の意義

1 万年前，全人類は狩猟採集民であった．人類史数百万年の 99%が狩猟採集時代であることからも，現代人の遺伝子，本能や性向，衝動や欲求などの基本がこの長大な時間の中で形成されたと考えられている．このことは狩猟採集民の研究が，現代にあっても人間研究の原点としての意義を持つ所以であるといえよう[1].

児童の行動の本質とその原型を知るうえで，狩猟採集民児童研究が意義あるものとされるところ

である．例えば近年では児童の遊びの原型も既に狩猟採集時代の狩猟行動や生活方法にその始原を求めることができるのではないか，という仮説が提出されるなどして，狩猟採集民の児童研究に新たな関心が寄せられている[2].

しかしながら，狩猟採集民児童を直接的に観察する機会は乏しく，彼等に接近するだけでも多くの壁がある．現代における狩猟採集民の総人口は地球人口の 0.003%にしか過ぎないし，その居住地も多くの場合は，アクセスが難しい砂漠や極地，深い森林, 山岳地帯, 海洋の島嶼部などである[3]. ムラブリの場合も，タイとラオスの深い森林の中を，居所を定めずに彷徨っていたのである．

また，観察機会の乏しさの原因はアクセスの問題だけではない．人間（児童）の行動や発達の痕跡や手掛かりは，遺跡，化石，土器のように具体的なエヴィデンスとして後世に残らなかったし，さらに事情を難しくしているのは，その社会がことごとく無文字社会であることも無関係ではない．

では，現代の狩猟採集民の行動研究がどのような意義をもつのであろうか．それはひとつには遊動狩猟採集社会が，人類史のもっとも原初的なライフスタイルであって，その時代の人間（児童）の行動を，現実に直接観察し，探求できるからに他ならない．彼らは 1 万年以前の狩猟採集民ではないが，いまなお，ほぼ太古と変わらぬ同様のライフスタイルを行っているのであって，それはかつての狩猟採集民の行動や生活を推測する上で，重要な手掛かりになるはずである．言いかえると，人間の行動とは本来いかなるものであったのかを考えるよすがになる可能性が大きい．

むろんそれを知ることができれば，現代の児童の教育，育児，指導などの諸問題を理解するヒントにもなろう．

## ２．研究の目的

本研究では，ムラブリ児童の行動特性を明らかにすることが目的である．ここでは従来の民族誌に記録されたムラブリの諸特性を基本にしたうえで，ムラブリの行動特性を評価するために欠かせないインヴェントリーを加えた評価尺度を使用している[4].

実際の評価にあたっては，ムラブリ児童の行動を日常的によく観察できる立場の評価者を選んで評定を行い，客観性と再現性を保証できるデータによってムラブリの児童がいかなる行動特性をもっているかを明らかにする．

### 2.1.　ムラブリ児童の行動特性の記録

20 世紀末までのムラブリの生活は，タイ山地の深い森における遊動狩猟採集活動に依存していた．その後，彼らはタイ政府の政策的誘導にそって，徐々に同国ナーン県などの山地に用意された集落に定住するようになった．定住化が進むと生業は，狩猟採集から同じ地域に生活するモン人が経営する農業労働に変わり，その賃金により生活を維持するようになった．しかし狩猟採集活動が完全に停止したわけではなく，生業の合間には今なお補助的にではあるが行われている（**写真 1**）．定住に伴って経済活動や衣食住のライフスタイルが変貌することになったが，ムラブリの言語，慣習，人間関係そしてかれら自身の性向，性格などが直ちに変容したわけではない．現在のムラブリは狩猟採集時代の記憶や行動のしかたを今でもそのまま残しているし，児童たちも就学するようになってはいるが，依然として森で遊び，狩猟採集生活時代の様々な行動を受け継いでいる．

これまでにムラブリの狩猟採集時代のライフスタイルについては Pookajorn, S.（1992）[5]が言語，親族組織，経済と社会，植物の利用，遺伝，歯科，食事と栄養，形態計測などについてタイ在住の研究者の分担研究をまとめている[5]．これに対して Trier, J.（2008）[6]は 1970 年から 1994 年までに 8 回にわたる探検的な調査を行い，ムラブリの物質文化，親族組織，経済，信仰，人類学的観察記録などを残している．これらの多分野にわたる共同研

**写真 1．現在でもムラブリは時折森で過ごす．**
**（Pradit, N. 撮影，2018，ファイユアック）**

究結果によってムラブリの全体像がほぼ明らかになってきたが，研究の視点はもっぱら大人たちの生態を観察対象としていて，まったく児童には向けられてこなかった．

児童の行動に関する記述は Bernatzik, H. A.（1897-1953）[7]とその妻が 1938 年に先鞭をつけたままその後，長い間報告がなく，筆者らが行った児童の遊び，発育，発達，食生活などに関する調査結果が報告されただけである [8][9][10][11][12]．その主たる理由は岩田（1971）[13]が記述しているように，深い森においてムラブリを調査対象として観察することが困難であったからである．

### 2.2. ムラブリ研究の古典，Bernatzik, H. A.民族誌の記録

Bernatzik, H. A.（以下，Bernatzik とする）の報告[7]の後，まとまった形での児童に関する調査報告は見られなくなった．その後，インドシナ半島の不幸な政治軍事的緊張のために，研究者たちがムラブリに接近することはさらに困難になった．やがて 1970 年台の後半になり，この地域における治安上の不安が徐々に解消され，調査が可能になったが，子どもを対象とした研究は依然として現れず，現在までのところ，著者らの報告があるくらいである．

本研究では Bernatzik H. A.の記録 “*Die Geister der gelben Blätter* [The spirit of the yellow leaves]”に記録されているムラブリ「児童の行動特性」を選び出し，この情報を手掛かりにしつつ，筆者らが現地における観察から得られた所見を加えて「ムラブリの行動特性を評価するインヴェントリー」を構成し報告している[4]．こうして得られたインヴェントリーによって，後述する多数の評価者によって「ムラブリ児童の行動特性」を客観的に評定し，この再現性が保証できるデータを基礎にして，Bernatzik の記録の妥当性，客観性を検討するとともに，ムラブリ児童の行動特性を明らかにする．

Bernatzik（1938）[7]によれば，彼らは忍耐強い調査の末にタイの山地に幻の民ムラブリの家族を森の中に発見し，9 名のムラブリ家族に彼ら夫妻に通訳など 11 名を同行し，総勢 20 名で森を逍遥した．その数週間という短期間でムラブリの行動を精力的に観察して記録を残した．中でも子どもの行動観察はエミー夫人が行ったように記録されている．Bernatzik の記録によると，ムラブリは「現存するすべての人類のうちで最も未開な民族（大林，p.313）」“*this most primitive of all peoples living today*” (Bernatzik, H. A.,1951: p.153)”[7]であり，「このことはわれわれがヨーロッパの子供の初学年の年齢に当然期待している精神発育度にも大人たちが達していないということを示している．（大林，p.309）」“*In this connexion we found that the adult Phi Tong Luang were unable to cope with the problems which are solved at once by European children of five to six years.*” (p.151)”[7]などと記述されており，民族誌全体を通して，その未開と低能力振りが繰り返し断定されている．

彼は，その調査が「絶望的になるほど困難だった」（大林，p.186）[7]と書き，ムラブリの行動を否定的に評価しているのである．そしてこの評価が後の研究者や一般読者に，ムラブリの未開，低能力，愚鈍，退嬰的というイメージ形成に影響していると言ってよいであろう．

筆者たちもムラブリ研究に携わった初期には，こうしたイメージを強烈に持っていたのである．ところが実際に 10 年間余りの調査を通じて実見し，感じ取ったムラブリの実像と Bernatzik の記録との間には，一致しない点があまりに多く，違和感を感じる箇所が少なくなかったのである．

むろん両者には時間的な隔たりがあり，同じ家族を観察しているわけでもないので，両者のイメージにズレがあるのは当然であるが，両者の矛盾は無視できないほどであると感じたのである．

筆者らはこの間の矛盾をいかに理解すべきか，悩んでいたのであるが，やがて Bernatzik 民族誌の記述内容自体に客観性や妥当性という点で問題があるのではないか，その記録自体を再評価，再検討するべきではないか，と考えるようになり，本研究に取り組むようになったのである．

そこで，筆者らはこの民族誌を手がかりとして，新たにムラブリ児童の行動をより客観的に評価する一つの試みを行うことにした．その手続きは以下のようである．

まず，Bernatzik 民族誌の中からムラブリの行動を記述した箇所を以下のA～Nのように抽出した．

Bernatzik は成人と児童，男女の区別をしてその特徴を記述していないので，彼が既述した行動特性の全てを児童の行動特性評価の対象とすること

はできない．そこで児童の行動の評価尺度になりうる特徴を民族誌の記録の中から抽出した．以下に，民族誌の中から抽出したそれらの特徴を，類似した A～N のインヴェントリー群としてまとめている．

カッコの数字はBernatzikの民族誌の英語版と日本語版の記載頁であるが，彼の指摘した特徴は必ずしもそれぞれの概念をその特性に沿って整理した上での評価ではなく，観察した場面ごとに応じて逐次的に記録したものであるので，引用ページは分散していてまとまりはない．

本研究ではこれらの文献上の記述を基礎にして，これまで研究者らがムラブリの児童を観察し，感じてきた印象を共同研究者間で協議し，評定インヴェントリーを選定した．

ここで行動特性と言うとき，現代の行動科学で用いる行動特性が想定する特徴は現代の先進社会における価値体系を背景にした概念ではなく，狩猟採集民ムラブリ児童の行動特性を評価するのにふさわしい特性を評価できることが望ましい．そこで，上記の Bernatzik の評価に新たに以下のインヴェントリーを加えてムラブリの行動特性を出来るだけ広範囲にカバーすることとし，そのインヴェントリーをもって評価しうる評価者を次のように選定した．

なお，右段落の大林（1968）の訳「ピー・トング・ルアング族」とはムラブリを指す．

---

A: *“We had, therefore to be content with using only the psychological questionnaires, though we tried to adapt many of the tests worked out for five and six- year-olds to the adults. These tests, too, had of course, to be adapted as far as possible to the primitives’ stock of ideas. In this connexion we found that the adult Phi Tong Luang were unable to cope with the problems which are solved at once by European children of five to six years.* (p.151)*”*

*“The capacity for learning especially seems to be extraordinarily low.”* (p.126)

*“They were incapable of abstract thought, and incapable of drawing conclusions.”* (p. 125)

*“They were unable to talk about things of the past or the future.”* (p.125)

*“The form of social organization, the attitude of the Phi Tong Luang to the struggle for existence, and many other things, indicate that the conception of individuality and the ability to will were only slightly developed in them.”* (p. 125)

*“Every child bears this burden, At barely seven years of age all further development of any importance seems to cease.”* (p. 151)

*“Their children who do not think out any games, who have no aim in life, and who take no pleasure in accomplishment, who have no questions and trouble themselves about no mysteries, also have very little persistence.”* (p. 152)

*“They had no conception of cause and effect, and no capacity of intellectual assimilation or criticism.”* (p. 127)

A: <u>無能さ，知能の低さについて</u>：「五，六歳用に作ったテストを成人に試みてみた．これらのテストは，もちろんこの未開人の成人の表象界にできるだけ即するように改めはしたが，それでもヨーロッパなら五，六歳の子供がすぐ解ける問題がピー・トング・ルアング族の成人には扱いかねたのである．このことはわれわれがヨーロッパの子供の初学年の年齢に当然期待している精神発育度にも大人たちが達していないということを示している．」（p.309）」

「学習能力は極度に低いようである」（p.187）

「彼らは抽象的に考えたり，結論を導き出すことができない」（p.184）」

「彼らは過去や未来を考慮することができなかった．」（p.184）

「ピー・トング・ルアング族の社会組織の形態や，生存競争に対する態度，その他多くの現象は個性の観念や意思する能力がほんの僅かしか発達していないことを示唆している．」（p.185）

「七歳になるかならぬうちに，どんな本質的な精神的発育もとまってしまうようにみえる．」（p.309）

「子供たちは何の遊戯も考え出さず，人生の目的もなく，何かを創造することに少しの喜びも見出さず，質問一つしなければ，ふしぎな物に対して何の疑問ももたない．」（p.310）

「彼らは原因結果の観念をもたず，認識とか批判の能力も彼らの特徴ではなかった．」（p.187）

B: *"This endurance of idleness was not balanced by any endurance of work."* (p. 124)

*"and he, too, would break off in the middle of a conversation the moment he felt like starting something else."* (p. 125)

B： **持久力が乏しい・集中力がない**：
「彼らがこの怠惰な時に示す持久力は，仕事をする時にはなかった.」(p. 184)
「そして彼とても，好きな時に，会話の真最中であっても話をやめ，他の事を始めた.」(p. 184)

C: *"Their docility and amenability , and their habit of obeying though they have not been taught to obey, bear witness to this."*
*"Yet the children are capable of a short-lived revolt. We call this period among our three- and four-year-olds the age of defiance; it troubles many parents. Among the Phi Tong Luang this period of suddenly awakened self-awareness and self-will also makes its appearance, but less markedly and at a rather later age, from five to six."* (p. 152)
*"Any idea of rebellion against the authority of the parents is foreign to them and so is any ambition to improve existing conditions, any idea of knowing better than the older people, any arrogance."* (p. 153)

C： **放まんさがない・反抗しない：**「子供たちのおとなしさ，扱いやすさ，教え込まれもしないのに従うという性格はその証拠である．(p. 310)」
「だが彼らに短いながらも反抗期がある．われわれが三歳から四歳ころの，反抗期と呼び，世間の親を悩ます時期があるが，ピー・トング・ルアング族ではこの自我意識と自己主張を突然呼びさます時期がやや弱くて遅く，五歳と六歳の間に現れるらしい．(pp. 310-311)

「親の権威に対する反抗という観念，現在の状態を改善しようという野心，より多く知ろうという意思，それに放まんさは彼らには未知のものである.」(p. 312)

D: *"This is shown by the self-sacrificing attitude of the parents to their children, and especially by the thoughtful care of the old and the ailing."* (p. 123)

*"The concern too, for those who are absent overlong, and the saving of food, of which there is often little enough to spare, for the absent, are further evidence."* (p. 123)
*"They like animals; they play with the dogs,"* (p. 149)

D： **老人や病人への思慮がある・長い間いない人への配慮がある・動物を可愛がる：**「このことは親の子供に対する自己犠牲的な態度や，特に老人や病人への思慮や世話がよく示している.」(p. 181)
「長い間いない人への配慮や，しばしばほとんど余分のない食物の中からいない人のための食物をとっておく心づかいなどもその証拠である.」(p. 181)
「動物を可愛がり，犬と遊び.」(p. 305)

E: *"I noticed no gestures of courtesy or of greeting or farewell among the Phi Tong Luang, and in all their intercourse with one another they showed almost entirely unemotional calmness and composure."* (p. 123)
*"I never saw a Phi Tong Luang annoyed or angry, and I never saw an expression of pleased excitement in any of these people."* (p. 123)

*"The Phi Tong Luang talked very little among themselves, and could be together of hours without speaking a word."* (p. 124)
*"These people of a remote age suffer from a burden that has impeded all development, an apathy a lethargy and a "stick-in -the-mud" ineducability, that have prevented any sort of progress in spite of all that has happened in the world during thousands of years."* (p. 151)

E： **無口である・怒らない・無関心，無気力・興奮しない・無感情である：**「お互い同士のつき合いではいつも彼らは殆ど全く無感情の冷静さ，落ち着きを示した.」(p. 181)
「わたしはピー・トング・ルアング族が苛立ったり怒ったりするのをついぞ見かけたことがなかったし，同様に喜びに興奮した表情を見せる者もいなかった.」(p. 181)
「ピー・トング・ルアング族は彼らの間でもほとんどしゃべらずに何時間も一緒にいることができた.」(p. 184)
「はるかな昔の〔生活をおくる〕これらの人々はどんな形の発展をさえも妨げる重荷を背負っている．無感情，箸にも棒にもかからぬ無気力そして保守性である.」(p. 309)

F: *"Shy and reserved as they were with us, there was no element of submissiveness in their behavior."* (p.122)

F： **控えめ・恥ずかしがりや・神経質・憶病：**「ピー・トング・ルアング族の行動は内気で控え目だったが，彼らの振舞いを服従的と名づくべきでは決してなかった.」(p.180)

| | | |
|---|---|---|
| | *"They are extremely timid and shay with a stranger, and will take nothing straight from his hand."* (p.150) | 「見知らぬ人に対してはひどく憶病で恥ずかしがりやで，決して彼の手から直接に物を受けようとしない.」(p. 308) |
| | *"Otherwise they are much too shy and nervous to approach a stranger."* (p.123) | 「それ以外の見知らぬ者については，彼らはあまりに怖がり屋で小心なので，近づこうとしない.」(p. 182) |
| | *"In spite of this good treatment of the Phi Tong Luang, they remained serious and reserved."* (p.124) | 「ピー・トング・ルアング族は依然として打ち解けず，よそよそしかった.」(p. 183) |
| | *"The most striking characteristic of the Phi Tong Luang was surely their excessive nervousness and timidity."* (p. 129) | 「ピー・トング・ルアング族の最も目立つ特徴は確かに彼らの極端な憶病さ，小心さである.」(p. 191) |
| | *"There good humour and their easy-going nature should be specially mentioned here."* (p.129) | 「彼らの人柄の良さやことに調和的な性格はここに特に強調しておくべきであろう.」(p. 191) |
| | *"In view of the extraordinary retiring nature and the timidity of the Phi Tong Luang ti is, of course, impossible to know all their retreats."* (p. 132) | 「ピー・トング・ルアング族は異常なほどの内気で小心な性格なので，彼らの隠れ家をすべて知ることはとうてい不可能である.」(p. 277) |
| G: | *"There was nothing worse than spitting or belching-which even the Phi Tong Luang avoided at meals."* (p. 123) | G：<u>約束を必ず守る・不誠実ではない・嘘をつかない・盗みをしない：</u>「唾を吐くことであろうとゲップをすることであろうと，見たことがなかった.」(p.182) |
| | *"There are no definite rules of good manners, but we never noticed any acts that seriously offended our code."* (p. 123) | 「行儀作法の決まった規則はないが，われわれの作法の規定にひどく反するような振舞いは一度も見かけなかった.」(p.182) |
| | *"We found no trace of untruthfulness or lack of candour."* (p. 129) | 「彼らには不誠実さとか嘘をつくことなどは見ることができなかった.」(p.191) |
| | *"Lying, indeed, is abhorred, and is one of the few things for which their children are punished."* (p. 129) | 「嘘は厳禁されているし，子供たちがしかられる数少ないとがめの一つである.」(p.191) |
| | *"A promise is always kept."* (p. 129) | 「約束は常に守られる.」(p.191) |
| | *"They never tool anything illicitly from our camp, whether tobacco or rice or anything else of value to them."* (p.129) | 「彼らは煙草であれ，米であれ，また彼らにとって価値のある他の何であれ，われわれの野営地から盗み出すことは決してなかった.」(p.191) |
| H | *"With a limited, childish imagination, with their minds at work only on the needs of the moments, these relics of the remote past live in eternal fear of men and animals."* (p.130) | H　<u>好奇心，想像力，創造力，予測力がない：</u>「限られた子供っぽい想像力をもって，その時々の必要にのみ向けられている思考能力をもって，この遠い過去の残存者は，人と動物への永遠の恐怖のうちに生きている.」(p.192) |
| | *"This is largely because they have no capacity of thinking ahead."* (p.140) | 「彼らが先のことを考える能力を持たないからである.」(p.292) |
| | *"they never occupy themselves creatively, unless they are big enough to make bamboo cooking-tots or pipes or string."* (p.149) | 「竹で煮鍋，笛，紐が作れるほど大きくなっても，創造的にこれらの材料を取り扱わない.」(p.306) |
| | *"The sight of any object unfamiliar to them arouses neither curiosity nor even interest, only surprise and shocked aversion."* (p.150) | 「彼らは何か見なれないものに対しては，好奇心や興味を抱くよりはまず驚きと嫌悪を示すようだ.」(p.308) |
| | *"There children, who do not think out any games,"*(p.152) | 「子供たちは何の遊戯も考え出さず.」(p.310) |
| | *"Their children who do not think out any games, who have no aim in life, and who take no pleasure in accomplishment, who have no questions and trouble themselves about no mysteries, also have very little persistence."* (p.152) | 「子供たちは何の遊戯も考え出さず，人生の目的もなく，何かを創造することに少しの喜びも見出さず，質問一つしなければ，ふしぎな物に対しての何の疑問も持たない.」(p.310) |
| I: | *"The children know no technical games, and never draw in the sand or on the ground."* (p.149) | I：<u>絵を描かない，歌を歌わず，踊らない：</u>「彼らは技術的な遊びを知らず砂や地面に絵を描かない.」(p.306) |
| | *"They know no fairy tales, songs, or dances."* (p.149) | 彼らにはおとぎ話，歌謡，踊りなどもない.」(p.306) |

J: *"Craftsmanship is at a very low level."* (p.141)

J： **手細工の技能水準は低い：**「技能はごく低い水準にある.」（p. 293）

K: *"The children have a certain self-reliance at an early age, and in general the freedom of the individual is respected within wide limits."* (p.148)

K： **ある程度の自立心がある，個人の自由度は大きい：**「彼らは小さいときからある程度独立的で，個人の自由も大幅に尊重されているようだ.」（p.305）

L: *"There can naturally be no joining in groups because there are seldom more than two or three children living together in a community."* (p.150)
*"They know no games with rules."* (p.149)

L： **子どもの集団はない：**「彼らは小さいときからある程度独立的で，個人の自由も大幅に尊重されているようだ.」（p.305）
「彼らは規則のある遊戯を一つも知らない.」(p.306)

M: *"We were unable to note any special faculties, such as inventiveness, commercial ability, organizing talent, or any sort of knowledge of nature."* (p.126)

*"The women were so much more lively that at first they seemed the more intelligent. This soon proved to be a mistake. Whenever I tried to learn anything of significance from them, it proved a waste of time. But they are certainly the more active."* (p.128)

*"The children only play with the material they collect, whether earth, sand, wood, plants, or flowers;"* (p.149)

M： **自分で集めた材料で遊ぶ，自然についての能力はない，女は男より活発：**「われわれは創造力，商業能力，組織する才能，自然についての何らかの知識などの特殊な能力について確認できなかった.」（p.187）
女たちは男たちよりはるかに活発だったので，最初は男よりも知的に見えた．しかし間もなくそれは誤りであることが分かった．彼女らから何か本質的な事を教えてもらおうと私が試みるたびに，いつも労力の消費であった．しかし彼女らが男たちより活発なことは確かだ.」（p.189）
子供たちは土くれにしろ砂，木，花にしろ，自分が集めたものをいじるだけである.」（p.306）

N: *"Although the Phi Tong Luang seem to suffer little from illness (all we could discover were ailments of the respiratory organs, rheumatic trouble, rare cases of malaria, and no skin diseases), they do not live to old age."* (p.132)

N： **病気にかからないようである：**「ピー・トング・ルアング族はほとんど病気にかからぬようだが（呼吸器の病気，リューマチ，それに稀にマラリヤが私たちの見出し得た病気のすべてであり，皮膚病はなかった）老齢までは生きのびない.」（p.277）

### 2.3. ムラブリの行動特性を評価する尺度（インヴェントリー）の構成

Bernatzik の記録を手掛かりとして，ムラブリの行動特性の輪郭を知るためのインヴェントリーを選定した．選定にあたっては，評価者が評価しやすいインヴェントリー（具体的な行動として観察しやすいこと）を候補として絞り込んだ．

しかし，実際にインタビューによって評定した後に，数量データとして評価することが難しかったというものについてはインタビュアーたちの意見を尊重して，解析の対象から除外した．それらは「感情が激しい」「怪我をした時にすぐ泣く」「お化けなどを怖がる」などであった．インヴェントリーの選定は次のプロセスで行っている．

1） Bernatzik の記録 *"Die Geister der gelben Bläetter"*（日本語訳『黄色の葉の精霊』[7]）から児童の行動特性を記述している行動特性を抽出した．
2） それらがムラブリの児童の行動特性評価インヴェントリーとなし得るかどうかを検討した．
3） 上記のインヴェントリー以外でムラブリの行動特性として重要と考えられるインヴェントリーを加えた．
4） これらのインヴェントリーについて評定者が「評定できるかどうか」を考慮して 38 インヴェントリーを用いることとした．
5） 上記を日本語とタイ語で作製し，ついでムラブリの成人にも理解できるように，インタビューの実際の方法を検討した．
6） 評定に当たっては評定者が採点できやすいように，モン人児童の当該行動を 1～5 点の尺度の 3 点と仮置きし，より肯定的なら 2 点か 1 点，否定的であるなら 4 点か 5 点のいずれかに評定してもらうこととした．

### 2.4. ムラブリ児童の行動特性評価インヴェントリー

前述の Bernatzik の記録と研究者らの所見から，インヴェントリー化できそうな行動の特徴を精選し，評定者として予定しているムラブリ，モン，タイの各評定者が理解しやすいように「タイ語によるインタビューの質問」を準備した[4]．精選したインヴェントリーは以下のようであった．以下のうち，1，2，6，14，18，19，21，22，24，25，26, 31～37 のインヴェントリーは Bernatzik の民族誌では特筆して行動の特徴としてはいないが，ムラブリの行動の特徴として新たに加えて評価した行動上の特徴である．

---

行動特性評価インヴェントリー（日本語版）

1. ムラブリの子どもは神経が細かいと思いますか.
2. ムラブリの子どもはすばしこいと思いますか.
3. ムラブリの子どもは 1 つのことに集中できると思いますか.
4. ムラブリの子どもは色々なことに興味をもつと思いますか
5. ムラブリの子どもは飽きっぽいと思いますか.
6. ムラブリの子どもは男女の仲が良いと思いますか.
7. ムラブリの子どもは友だち同士の仲が良いと思いますか.
8. ムラブリの子どもは優しい性格だと思いますか.
9. ムラブリの子どもは清潔だと思いますか.
10. ムラブリの子どもは性格が明るいと思いますか.
11. ムラブリの子どもは勉強が好きだと思いますか.
12. ムラブリの子どもは競争心が少ないと思いますか.
13. ムラブリの子どもはおとなしいと思いますか.
14. ムラブリの子どもは乱暴だと思いますか.
15. ムラブリの子どもは指先が器用だと思いますか.
16. ムラブリの子どもは話をするのが好きだと思いますか.
17. ムラブリの子どもは自分のことを自分で出来ると思いますか.
18. ムラブリの子どもは怪我をしにくいと思いますか.
19. ムラブリの子どもは病気にかかりにくいと思いますか.
20. ムラブリの子どもは怒りっぽいと思いますか.
21. ムラブリの子どもは他人に対する思いやりがある（やさしい）と思いますか.
22. ムラブリの子どもは走るのが得意だと思いますか.
23. ムラブリの子どもは約束を守ると思いますか.
24. ムラブリの子どもは先生の言うことに，よく従いますか.
25. ムラブリの子どもは絵を描くのが上手いと思いますか.
26. ムラブリの子どもは歌が上手だと思いますか.
27. ムラブリの子どもは虫や動物が好きだと思いますか.
28. ムラブリの子どもは森や川が好きだと思いますか.
29. ムラブリの子どもは家族を大切にすると思いますか.
30. ムラブリの子どもはグループで行動するのが得意ですか.
31. ムラブリの子どもは一人でいるのが好きですか.
32. ムラブリの子どもは怖がりですか.
33. ムラブリの子どもは礼儀正しいですか.
34. ムラブリの子どもは甘えん坊ですか.
35. ムラブリの子どもは一人で行動できますか.
36. ムラブリの子どもは誰かを仲間外れにしますか.
37. ムラブリの子どもは我慢強いですか.
38. ムラブリの子どもは男女は平等と思いますか.

### 2.5.　評定者と評定手続き

行動の観察・評価者の問題

児童の行動特性を評価するには，評価する側の能力が大きく関与する．特に狩猟採集民について，彼らの習慣や考え方，行動の仕方についての理解が不可欠である．この点に関しては筆者らが指摘したように[4]，ムラブリには独特の慣習や価値観があり，観察者が生きる現代のそれとは大きな差異が存在する．それだけにムラブリの行動をありのままに評価するには，彼らと共に生活し行動をじっくり観察している評価者が望ましい．Bernatzik は数週間程度のムラブリの行動観察から，ムラブリの多面的な行動や性格，能力など具体的に記録したのであるが，これに対して，本研究では数年以上ムラブリの児童を観察してきた人々を評価者にしている．具体的にはムラブリの児童たちが寄宿して就学している学校のタイ人教師，ムラブリの最近接民族であるモン人の教師と，児童達の日常の世話をしている学校の用務員，そして幼いときから児童を育て観察してきた児童と同じ集落に住むムラブリの成人たち，加えてムラブリ研究を行っている，頻繁に彼らに接触している研究者たちの 4 つのグループの 48 人である．

現実にこれらの評価者以上に，ムラブリ児童をよく知る集団は見当たらないので，これが準備できる最適の評価者集団であると考えた．

それぞれのインヴェントリーについては 1～5 点の数量的な表現で評価したが，評定にあたってはインタビュアーが評定者に個別に対面して，タイ語またはムラブリ語によって，評価インヴェントリーについての説明を行い，研究者間の協議を経てインタビュアーが数量化するという手続きをとった．評定者は次のようである．

ムラブリの成人：
19 名，21 歳～64 歳，男性 6 名，女性 13 名，
全員ファイユアック集落（ムラブリ居住地）の住人で職業は全員が農業である．
タイ人の教師：
13 名，25～57 歳，男性 4 名，女性 9 名，
全員が P 学校勤務，
モン人の教師：
9 名，26～47 歳，男性 5 名，女性 4 名，
7 名が学校勤務，2 名が農業．P 学校職員など
ムラブリの研究者：
7 名，40～75 歳，タイ人男性 2 名，女性 2 名，
日本人男性 2 名，女性 1 名，

上記のインヴェントリー1～38 はタイ語の日本語訳であり，インタビューに当たってはタイ語を使用している．ムラブリの成人に対してはさらに，ムラブリ語を併用している．

### 2.6.　インタビューと評価方法

調査日：2021 年の 1 月から 3 月
対象とインタビュアー：現地でタイ人インタビュアー2 名（男性 2 名）が現地に赴き，タイ人の現地協力者（女性）と共同で以下の要領で評定者にインタビューを行った．

インタビューに際しては，まず，簡単に調査の目的を紹介し，答えられない質問には答えなくて良いことなどを説明したうえで，「あなたはムラブリの子どもは友だち同士の仲が良いと思いますか？」と尋ねる時に，評定者が答えやすいように，「モン人の子どもと比較した時，どうですか？」と評価者の立場を考慮した手がかりを用意した．インタビューにあたっては，必ず複数の共同研究者が立ち会い，出来るだけ客観性を保つように配慮している．質問を開始する前には，「ムラブリとしては，小学生 4，5，6 年生くらいの男の子たちを想定してください．」「質問に対しては，あなたの思うままを答えて下さい．」「評価にあたってはモンと比較すると分かり易いです」「質問の意味が分からない時や，評価が難しかった時は，無理に答えなくていいです」と案内し，聞き終わったところで，インタビュアーが，回答を 1～5 の番号で評価します．」

評価者に「採点は次のようにお願いします．」と案内し，評定が難しかった時はインタビュアーが総合的に判断して評定を記入している．

1 点　「とても，そう思う」と答えたとき．
2 点　「少しそう思う」と答えたとき．
3 点　「だいたいモンの子とムラブリの子は同じくらい」と答えたとき．
4 点　「あまり，そう思わない」と答えたとき．
5 点　「全くそう思わない」と答えたとき．

### 2.7.　評価インヴェントリーのエラボレーション

インタビュアーを介して得られた数量的なデータをもとに集計を行った．データ集計に際しては研究者の意志が介入しないように現地で保管し，データ入力は調査とは無関係のタイ人の教員に，データ解析は S データ解析センターに基本集計を委託している．研究者がデータの分析を行ったのは全てのデータの基本集計が終了した後である．

なお，これらの 38 インヴェントリーについては最初 41 インヴェントリーの調査を行ったのであるが，基本集計結果を観察して不適切なインヴェントリーを除外したものである．研究者らは，現地のインタビュアーたちとの協議を随時行っているが，そこで，回答者たちから「評価が難しい」という感想があるとの意見があったインヴェントリーがあり，これらのインヴェントリーを評価に加えない方が良いという意見に従って，これらの回答情報を分析から除外したのである．これらは，評定者がたまにしか観察できない現象「怪我をした時にすぐ泣く」「お化けなどを怖がる」などで，観察した人としなかった人のバラツキが大きいという理由が指摘された．その結果 38 インヴェントリーが解析の対象となった．

## ３．データ集計と解析の手順

解析にあたって，48 名の評定者の評定データから基本的な平均値，不偏分散などの統計量を**表 1** に示した．ついで，これらのインヴェントリーを用いて以下の標準的な因子分析を行ってインヴェントリーの要約，整理を試みた．

1）　狩猟採集民の児童の行動特性を概観するにあたっては，インタビューで用いた全インヴェントリーをいくつかの類似した行動特性に分類し，それぞれのインヴェントリーの意義を吟味するために，因子分析を行って変数間の相関係数行列 $38C_2$ からムラブリの行動特性を整理した因子分析には主因子法を，因子の回転はバリマックス解を用いた．

2）　因子分析の結果を参考にしながら，ムラブリ児童の行動特性について 38 インヴェントリーの評定値を逐次解釈して，Bernatzik の記録と比較した．

**表 1．ムラブリ児童の行動特性の 5 段階評定結果**

（N=48）

| 変数 | 平均（点） | 不偏分散 | ±1 標準偏差 |
|---|---|---|---|
| 神経が繊細 | 3.375 | 1.218 | 1.104 |
| 集中できる | 3.104 | 1.031 | 1.016 |
| 色々と興味を持つ | 2.417 | 1.057 | 1.028 |
| 飽きっぽい | 2.104 | 1.329 | 1.153 |
| 清潔 | 4.438 | 0.762 | 0.873 |
| 勉強が好き | 3.375 | 1.388 | 1.178 |
| おとなしい | 3.042 | 1.020 | 1.010 |
| 指先が器用 | 2.208 | 1.402 | 1.184 |
| 話すき | 3.063 | 1.634 | 1.278 |
| 病気にかかりにくい | 2.771 | 1.414 | 1.189 |
| 思いやりがある | 2.208 | 1.020 | 1.010 |
| 約束を守る | 2.729 | 1.351 | 1.162 |
| 絵が上手 | 3.646 | 1.510 | 1.229 |
| 歌が上手 | 3.333 | 1.631 | 1.277 |
| 虫や動物が好き | 2.125 | 1.218 | 1.104 |
| 森や川が好き | 1.979 | 1.212 | 1.101 |
| 家族を大切にする | 2.563 | 0.975 | 0.987 |
| 怖がり | 3.063 | 1.549 | 1.245 |
| 単独行動できる | 2.854 | 1.574 | 1.255 |
| 仲間外れにする | 3.333 | 1.248 | 1.117 |
| 男女平等 | 2.625 | 1.218 | 1.104 |
| すばしこい | 1.625 | 0.793 | 0.890 |
| 男女の仲が良い | 1.938 | 0.911 | 0.954 |
| 友だちとの仲が良い | 1.708 | 0.849 | 0.922 |
| 優しい性格 | 2.042 | 0.977 | 0.988 |
| 性格明るい | 2.687 | 1.411 | 1.188 |
| 競争心が少ない | 2.188 | 1.134 | 1.065 |
| 乱暴である | 3.417 | 1.142 | 1.069 |
| 先生の言うことを聞く | 2.604 | 1.308 | 1.144 |
| 自分のことが自分でできる | 3.083 | 1.610 | 1.269 |
| 怪我をしにくい | 2.604 | 0.883 | 0.939 |
| 怒りっぽい | 3.146 | 1.574 | 1.255 |
| 走るのが得意 | 1.667 | 0.950 | 0.975 |
| グループ行動が得意 | 2.042 | 0.977 | 0.988 |
| １人が好き | 3.208 | 1.998 | 1.414 |
| 礼儀正しい | 2.771 | 0.819 | 0.905 |
| 甘えん坊 | 2.813 | 1.645 | 1.283 |
| 我慢強い | 1.917 | 0.844 | 0.919 |

## 4．結果と考察

### 4.1.　因子分析からみたムラブリの主要な行動特性

主因子法による解析結果として，抽出された固有値λ≧1.00 の因子は 11 この因子であり，累積分散量は 78%であった．この因子負荷量行列を観察したところ，第 1～第 5 因子で簡明に解釈できるので，この 5 因子によるバリマックス回転を試みた結果が**表 2** である．これらの因子を解釈すると以下のようになる．

第 1 因子で抽出された因子で大きな負荷量を示している変数は，走るのが得意，すばしこい，ほか，指先が器用，という身体性に関連した変数群である．これらの変数は体力科学では行動的体力とされる概念であって，さらに前 2 者はグロスモータースキル，「指先が器用」はファインモータースキルとされる身体能力である．ムラブリの行動特性としてこれらの身体性に関連した因子が（説明力のある）第 1 因子として抽出されていることに注目する．

また第 1 因子では，
・競争心が少ない
・自分のことは自分でできる
・色々と興味を持つ
・怒りっぽい
・甘えん坊
・おとなしい，おもいやりがある，という性格，性向に関連した変数群が同時に高い負荷を示していることも興味深い．この因子には，
・男女の仲が良い
・友だちとの仲が良い
・家族を大切にする
・男女の仲が良い
・グループ行動が得意
・思いやりがある，という対人関係，社会性の発達に関連した変数群が見られていることも注目される．さらに
・森や川が好き
・虫や動物が好き，という自然を愛好する性向がやや高い負荷量を示している．

第 1 因子にはこれらの多様な行動特性が複合的に合成されており，この因子がムラブリ児童を代表する行動特性因子であると解釈して良さそうである．

この解析結果は，筆者らがこれまでにムラブリ児童の観察から強く受けていた印象ともよく一致しており，また，**表 1** の評定値の平均値とも符合し，ムラブリの特徴をよく表現していると言える．

第 2 因子では，
・らんぼう（ではない）
・仲間外れ（にしない）
・怖がり（ではない）
・怒りっぽくない
・甘えん坊
・飽きっぽい
・思いやりがある，などのムラブリ児童の特徴を抽出した因子である．この因子はムラブリの児童たちが過剰なくらい母親によって保護され，誕生から 3 歳くらいまでは母親から離れずに，また離乳が遅く，決して親たちから叱られることなく育てられてきたことを，うかがわせる行動特性が表現されている因子である．また，
・家族を大切にする（因子負荷量 0.38，評定点 2.5 点）が第 1 因子と共に第 2 因子にも貢献している．
これらの結果からはこの因子は，ムラブリの暖かい生育環境が反映した自由で穏やかな行動特性の因子と解釈できる．

第 3 因子は，
・優しい
・我慢強い
・約束を守る
・神経が繊細（ではない）
・清潔（ではない）
・話すき（ではない）
・乱暴
・病気にかかりにくい
・怪我をしにくい
・虫や動物が好き，という変数に高い負荷量（α>0.37）が認められる．この第 3 因子は，第 1 因子に行動体力の因子が現れているのに対して，防衛体力に関する因子がここに見られるほか，ムラブリの律儀（評定点 2.7 点）で忍耐強く（評定点 1.9 点），優しい性格（評定点 2.0 点），を表現している因子である．

また，狩猟採集民の特性が，神経の繊細さの欠如や乱暴，無口という特性と共に抽出されているのが注目される．

**表 2. ムラブリ児童の行動特性因子（バリマックス回転後の 5 つの因子）（N=48）**

| 変　数 | 因子 1 | 因子 2 | 因子 3 | 因子 4 | 因子 5 |
|---|---|---|---|---|---|
| 神経が繊細 | -0.1311 | -0.0487 | -0.4162 | -0.4073 | -0.0880 |
| 集中できる | 0.1831 | -0.0041 | -0.0039 | -0.2784 | 0.3546 |
| 色々と興味を持つ | 0.4476 | 0.2227 | -0.3515 | -0.2037 | 0.2622 |
| 飽きっぽい | 0.2552 | 0.5788 | 0.0747 | 0.1833 | -0.0400 |
| 清潔 | 0.0567 | 0.0142 | -0.5382 | 0.0157 | 0.1307 |
| 勉強が好き | -0.1164 | 0.0054 | 0.0150 | 0.1092 | 0.6708 |
| おとなしい | 0.3995 | -0.0758 | -0.1598 | -0.1484 | 0.0201 |
| 指先が器用 | 0.5782 | 0.0536 | -0.0766 | -0.2287 | 0.0927 |
| 話すき | 0.1207 | 0.0944 | -0.4181 | -0.1967 | 0.2693 |
| 病気にかかりにくい | -0.1760 | 0.1169 | 0.4328 | 0.2795 | 0.1779 |
| 思いやりがある | 0.4096 | 0.4612 | 0.1611 | -0.1826 | 0.4391 |
| 約束を守る | 0.1664 | -0.0181 | 0.4739 | -0.6171 | -0.2577 |
| 絵が上手 | -0.0003 | -0.0592 | -0.0851 | 0.0797 | 0.6182 |
| 歌が上手 | -0.0540 | -0.0868 | 0.0905 | 0.0830 | 0.6586 |
| 虫や動物が好き | 0.3009 | -0.0552 | 0.4150 | 0.1218 | 0.1116 |
| 森や川が好き | 0.4599 | 0.4291 | 0.2668 | -0.3175 | -0.0384 |
| 家族を大切にする | 0.3501 | 0.3871 | -0.0986 | -0.5915 | 0.2467 |
| 怖がり | 0.0352 | 0.6186 | -0.0160 | -0.0276 | 0.0711 |
| 単独行動できる | 0.3108 | -0.1742 | 0.1700 | 0.2570 | 0.0481 |
| 仲間外れにする | -0.2367 | 0.6497 | -0.1008 | -0.1373 | 0.0037 |
| 男女平等 | 0.2818 | 0.0994 | 0.1687 | -0.0436 | -0.0636 |
| すばしこい | 0.6581 | 0.1947 | 0.1274 | 0.1121 | -0.0865 |
| 男女の仲が良い | 0.5388 | -0.0091 | -0.1209 | -0.0654 | -0.1272 |
| 友だちとの仲がよい | 0.5438 | 0.0908 | 0.2010 | 0.2413 | 0.2831 |
| 優しい性格 | 0.2060 | 0.0868 | 0.6620 | -0.0125 | 0.2121 |
| 性格明るい | 0.1112 | 0.1701 | -0.0576 | 0.5224 | 0.4389 |
| 競争心が少ない | 0.3796 | 0.0873 | 0.1916 | 0.5333 | -0.1567 |
| 乱暴である | 0.0572 | 0.6877 | -0.5226 | -0.0726 | -0.1818 |
| 先生の言うことを聞く | 0.2217 | -0.3562 | -0.3569 | 0.0286 | 0.1201 |
| 自分のことが自分でできる | 0.6309 | -0.4363 | -0.0052 | -0.1665 | 0.0115 |
| 怪我をしにくい | -0.1278 | 0.1229 | 0.3763 | 0.4540 | 0.0358 |
| 怒りっぽい | 0.3981 | 0.6045 | -0.3184 | -0.1184 | 0.1087 |
| 走るのが得意 | 0.7414 | 0.1770 | 0.2838 | 0.2676 | -0.0600 |
| グループ行動が得意 | 0.6948 | 0.2060 | -0.0236 | 0.0409 | 0.1044 |
| 1 人が好き | -0.1015 | -0.2864 | 0.2481 | 0.5732 | -0.0644 |
| 礼儀正しい | 0.0351 | 0.1396 | 0.0850 | -0.2961 | 0.5367 |
| 甘えん坊 | 0.1776 | 0.5816 | 0.1012 | 0.0749 | 0.0180 |
| 我慢強い | 0.1480 | -0.1923 | 0.5632 | 0.0571 | 0.0759 |

第 4 因子は,
・一人が好き
・競争心が少ない
・性格が明るい,
という家族や約束を守る律儀さと，怪我をしない，神経が繊細でない，などの変数に高い負荷量が見られる．この競争心の低さはムラブリ社会の徹底した平等性や非差別性を反映した性格であると言えるが，Bernazik が記録したムラブリの「自立心の欠如」は評定点が 3.0 と平均であって，それを指摘できる水準ではない．また Bernazik がしばしば指摘しているムラブリの性格の暗さについても，評定点は 2.6 であってむしろ「性格は明るい」というべきであるから，この点についても正確に評価しているとは言えない．この第 4 因子は，ムラブリが自立的でありながら競争心が少なく，明朗な性格であることを表現した因子である．

第 5 因子は，勉強好き，絵が上手，歌が上手という変数に負荷量が高い（α>0.6）因子である．これについては，評定点は 3.3 以上であって，むしろ上手ではない，不得意であると言える因子となっており，これらは Bernazik がいずれもムラブリにはそのような行動特性は無い，と否定していることと方向は一致している．しかし Bernazik はそういう能力の存在を真っ向から否定しているのであって，やはり極端な評価にすぎるようである．さらに第 5 因子には，「礼儀正しい」ほか「思いやり」,「明るい性格」が α>0.4 であって，これらの評定値はいずれも，2.2 点と 2.6 点で思いやりがあり，明るい，という傾向があるのである．
この第 5 因子はムラブリの特性のうちで芸術や学習という点での消極的な側面を集約した因子であるとともに彼らの温和で優しい性格を集約した特性に関連した因子である．

これらの第 1 から第 5 因子までの解析結果を総括することで，ムラブリの行動特性をほぼ説明できると思われる．また主因子解の結果から，第 6 因子以下の因子負荷量はいずれも高くなく（a<0.4）また中等度の負荷量を示す変数も 1～2 変数しかないので，有効な行動特性因子と見なさず，ムラブリの児童の行動を表現するには，第 5 因子までで解釈したほうが分かりやすいと考えたのである．

改めて因子回転後の 5 因子を解釈すると，

- 第 1 因子はムラブリ児童の行動特性を代表する重要な変数群である．それはグロスモータースキル，ファインモータースキルなどの行動体力と社会性の発達の因子であって，第 2 因子以下で抽出されている重要な行動特性の多くがこの第 1 因子にすでに抽出されている．
- 第 2 因子はムラブリの暖かい生育環境が反映された自由で穏やかな行動特性の因子と解釈できる．
- 第 3 因子は「優しさや我慢強さ」，そしてムラブリのすぐれた「防衛体力」と「自然に親しむ」行動特性の因子と解釈できる．
- 第 4 因子はムラブリの自立的でありながら競争心が少なく，明朗な性格を表現した因子．
- 第 5 因子はムラブリの行動特性のうちで芸術や学習という点での消極的な側面を集約した因子であり，これに彼らの温和でやさしい性格が重ねられた因子である．
- これらの因子分析の結果は，評定者全員のデータを使用した時の分析結果であり，その意味からこの 5 因子をもって，ムラブリの行動特性であると言えよう．

### 4.2.　多面的なムラブリの児童の行動特性評価

ムラブリの児童の行動特性を評価する時に，ムラブリ自身の保護者や家族の評価と，隣人とはいえタイ人やモン人のそれではそれぞれに差異が予想できる．さらには最も客観的な評価が期待されるムラブリ研究者たちのムラブリの児童に対する評価もある．これらの 4 者の評価結果を相互比較することは，この種の主観的な観察評価の情報をもって基礎データと見なしている研究分野にとっては，本質的な問題を内包している．

本研究ではこの点，これらの評価者の立場の違いには触れず，4 者を包括してムラブリ児童の行動特性を観察してみよう．

1）ムラブリ児童という表象を，（ムラブリをよく知る）立場の異なる多数の評価者の視点からその行動特性を評価すると，どのようなものであるか．

2）ムラブリ児童のイメージについて，長い間研究者や一般読者に，大きな影響を与えてきた Bernazik の観察記録は上記 1）の視点か見た時に，どれくらい整合しているのか．言いかえると，1 人の人類学者が残した民族誌はどれほどの真実性があるのか．

### 4.3.　38 インヴェントリーの行動特性評定スコアと Bernazik の評価との関係，矛盾

因子分析結果の第 1 因子では，次の変数が大きな因子負荷量（因子と各変数との相関係数）を示した．

・走るのが得意
・グループ行動が得意
・すばしこい
・自分のことは自分でできる
・指先が器用
・友だちとの仲が良い
・男女の仲が良い
・森や川が好き
・いろいろと興味を持つ，などの変数である．

これは著者らが実際にムラブリを観察してきた際にも第一印象として感じる特性であって，解析結果も第 1 因子としてこれを抽出しており，これらをムラブリの児童の代表的な特性を考えてよいであろう．

しかし，この代表的行動特性については，Bernazik はまったく触れることはなく，反対に「指先が不器用である」などと正反対の評価をしている．Bernazik が見落としていた理由は，彼等は深い森の中で，短期間の観察しか行っておらず，彼らの素晴らしい疾走場面や児童らが友だちと仲良く楽しそうに遊ぶシーン（**写真 2**）を観察していなかったのであろう．また，Bernazik らが彷徨した森には，子どもたちが疾走できるような平坦な空間がなかったのかもしれない．もっとも彼が同行したのはたった一組の家族であったので児童の集団が無かったのかもしれない．いずれにしても Bernazik はムラブリの最も顕著な行動特性をまったく見逃しているのである．

**写真 2．ムラブリの簡単な方形の風除け住居を作る子どもたち．子どもは，仲間との遊び中で生活技術を身に付けていく．（Pradit，N 撮影，2020，ファイユアック）**

そこで，再度，これらの特性の評定値を観察してみよう．すなわち評定値は 1 点に近づくほど，より当該の特性が明確に強く認められ，反対に 3 点以下は 5 点に近づくほど特性は弱くなる．

・走るのが得意.....1.6（点）
・グループ行動が得意....2.0
・すばしこい.....1.6
・指先が器用.....2.2
・男女の仲が良い.....1.9
・友だちとの仲が良い....1.7

などと，もっとも高評価をしめす行動特性群であって，これらの特性をムラブリ児童の代表的な行動特性とすることができるのである．

因子回転後に第 2 因子に分類されたのは不安や情動に関係した特性である．「乱暴（ではない），仲間外れ（にしない），怖がり，怒りっぽい，甘えん坊，飽きっぽい」などが，負荷量が 0.5 以上である．これらの行動特性の**表 1** の評定値は，

・乱暴.....3.4（点）であるから，
　あまり乱暴ではない，という意味に解せる．

同様に

・仲間外れ.....3.3（点）であるから，
　仲間外れにしない，傾向である．
・甘えん坊.....2.8
・飽きっぽい.....2.1　これらはムラブリの児童の特性として第 3 者が共感する特性でもある．

「怖がり」と「怒りっぽい」は 3.0 の近傍であってどちらでもない．

これらの評価は評定者がそのような行動を経験していなければ，評定は出来ないのであるから，ムラブリの家族や寄宿舎で彼らの日常生活を観察しているこの調査の評定者のほうが Bernazik よりは正しい評価をしていると考えるべきである．

また，思いやりがある，森や川が好き，の因子負荷量は第 1 因子，第 2 因子ともに 0.4 以上の中等度の負荷量を示しており，評定値もそれぞれ 2.2 と 1.9 であるから，ムラブリの児童の行動特性を，自然を好む傾向にあると解釈できる．

因子回転後の第 3 因子は，ムラブリの児童の性格と身体性の特徴を表している．0.5 以上の負荷量は，やさしさと我慢強さであり，続いて約束を守る，病気にかかりにくい，虫や動物が好き，怪我をしにくい，なども中等度の負荷量をもっている．

この点に関して**表 1** の評定点では，
優しさ .....2.0（点）と
我慢強さ .....1.9 であり，続いて
約束を守る .....2.7
病気にかかりにくい .....2.7
虫や動物が好き .....2.1
怪我をしにくい .....2.6 と肯定的な評価が与えられていることから，ムラブリ児童は忍耐強く，やさしく，動物が好きで，また防衛体力も高いと言うことになる．

続く因子回転後の第 4 因子は,「一人が好き」「競争心が少ない」「明るい性格」というムラブリの平和的で静かな性格を反映した因子が抽出されている．これを**表 1** の評定平均値で見ると，
競争心が少ない ..... 2.1（点）
明るい性格 ..... 2.6
1 人が好き（ではない） .... 3.2 である．とりわけ，他の民族と比べて明らかに特徴的な特性として「競争心」が乏しい特性をあげることができる．これはムラブリの成人でも強く印象付けられる特性の 1 つであって．性別，貧富，能力，美醜などによって差別をしないムラブリ社会で育っているムラブリの児童もまた，学校というとかく競争的になりがちな環境にいながらも，競争心は希薄なのである．

因子回転後の第 5 因子では「勉強が好き」「歌が上手」「絵が上手」「礼儀正しい」などが負荷量が 0.5 以上である．この因子は学習や芸術などに関する因子である．これらを**表 1** の評定結果では，
勉強が好き .....3.3（点）
歌が上手 .....3.3
絵が上手 .....3.6
である．従ってムラブリ児童は勉強や歌，絵はあまり得意ではない，好きではない，という傾向があり，これらの変数群からなる特徴がムラブリ児童なのである．
これらの結果もムラブリに日頃接触している評価者の妥当な評定結果であると考えられる．一方「礼儀正しい」のついては 2.7 が評定値であって，ムラブリの児童はけっして粗暴でないことが分かる．

以上，主要な 5 因子について，各変数の評定平均値を参考にしつつ解釈をした．これらの評定結果は著者らの印象にもよく合っており，ムラブリの児童の行動特性として無理なく理解できる．

### 4.4.　Bernazik が記録した行動特性との比較

上記のようにムラブリ児童の行動特性を計量的に評価してみると，前述の Bernazik の記録とは大きな違いがある．そこで，再度評価が一致している点，不一致の点を整理する．

| | | |
|---|---|---|
| 1） | Bernazik の記述が概ね評定と整合していた行動特性 | おとなしい |
| | | 調和的性格 |
| | | 性格温厚 |
| | | 動物をかわいがる，など |
| 2） | Bernazik の記述と評定が矛盾していた行動特性 | 集中力がない |
| | | 持久力が乏しい |
| | | 好奇心がない |
| | | 疑問をもたない |
| | | 無気力 |
| | | 意志が未発達 |
| | | 独立心・自立心の弱さ |
| | | 土，木，花など扱わない |
| | | 手仕事の能力は非常に低い |
| | | 不器用である |
| | | 規則のある遊びを知らない |
| | | 組織する能力欠如 |
| | | 児童の集団はない |
| 3） | Bernazik が既述していない（見落としていた）重要な行動特性 | Bernazik はムラブリの最も優れた特性とも云える行動体力，防衛体力という長所を見落としていた． |
| 4） | Bernazik の記述が適切，不適切いずれとも今回の調査だけでは断定できない行動特性 | 無能である |
| | | 言語能力は微弱であるがそれなりにある |
| | | 先のことを考えられない |
| | | 批判能力はない |
| | | 我意がない |
| | | 扱いやすい |
| | | 従順 |
| | | 傲慢さがない |
| | | 反抗しない<br>異常なほどの内気で小心 |
| | | 非常に臆病 |
| | | 誠実 |
| | | 嘘をつかない |
| | | 盗みはない |
| | | 個人差が小さい |

以上見てきたように，Bernazik が記録した民族誌はムラブリの重要な行動特性を見落としているほか，不適切な誤解を招く記述が少なくないことが明らかである．

## ５．単独の研究者による民族誌の抱えている問題

では Bernatzik の記述はなぜこのように食い違いを見せているのか．そこで Bernatzik の調査方法の問題点を考察してみる．

**問題点１**　Bernatzik の調査期間がきわめて短期間であることと，観察対象が 1 家族だけであることは，目撃している行動の種類や頻度も非常に限定されたものであったので，この民族誌には自らが記録した情報に限界があった．Bernatzik の調査対象となった 1 家族は，それまでには経験したことのない西洋人やラオ人，メオ人たちと森を共に 24 時間生活するという異例の行動をしており，彼等は著しく緊張していたはずである．したがってその行動は平常の生活と異なる特殊な情況におけるものであった可能性が高い．

**問題点２**　Bernatzik は，ムラブリは「踊り，音楽，絵画など」を行う能力に欠けている（大林，p.326-327）と言っているが，彼らには素朴ながら踊りも音楽も存在する．このようにたまたま観察されなかった事象，能力を評価してしまうという，科学精神に欠けた点が見受けられる．民族誌の場合，こうした主観的で個人的な判断を無批判にそのまま研究成果としてしまう傾向がある．

**問題点３**　民族誌には，評価の妥当性や客観性が科学的に保証できない，追試することもできないという深刻な問題がある．その内容は読み物であることが多く，そのために一般読者などに対して影響力が及びやすい．今も，タイ社会にはムラブリに対するなどには，根強い偏見や蔑視が残っており，タイ語ではムラブリと呼称せず，一般人はタイ語でピートンルアン（黄色の葉のお化け）と呼んでいるくらいである．ムラブリは不当な評価を受けていると言え，その一役を民族誌が負っていると言えよう．

**問題点４**　行動の評価は当該の行動を観察する機会の有無によって，結果が違ったものになる．例えば，この調査における評価では，「指先が器用」の評定値が 2.2 であって，むしろムラブリは器用であるといえるが，Bernatzik は明確に「不器用である」としている．しかしもし Bernatzik が，ムラブリたちが手指を使うだけで植物繊維から糸をつくり出し，カバンなどを製作する工程を，時間をかけて観察していれば，この評価は違ったものになっていたはずである（**写真 3**）．幸いこの調査で評定をお願いした人々は，様々なシーンで子どもたちが器用に工作し，植物や虫を扱い，きれいなタイ文字を書くことを目撃しているので，Bernatzik とは反対の評定をしているのである．

**問題点５**　Bernatzik の民族誌では遊動民のムラブリが，どこの森を遊動したのか不明なのである．時と場所，研究対象者が不明であることはこの民族誌の記録の真実性を確認することを妨げているといえる．

**問題点６**　最も重要な問題として，民族誌の観察者と記録者が単数である点を挙げなければならない．これは民族誌一般にも言えることであって，主観性が高く，客観性が欠如していることが大きな弱点である．

これらの結果からは Bernatzik の民族誌における記述は，ムラブリの行動特性を正しく評価しているとは言えず，これを修正しなければムラブリの不当な評価と差別をもたらす原因になることが危惧される．

**写真 3．ムラブリが編む肩掛け袋，道具はあみ針（中央），原料はつる草繊維（左）（筆者所有）**

最後に，ムラブリの児童の行動特性をあらためて記述してみよう．

まず，彼らの特性は「すばしこく」「走るのが得意」などの，優れたグロスモータースキルと，「指先が器用」であることからファインモータースキルにも優れており，さらに「怪我をしにくく」「病気をしにくい」から行動体力に加えて防衛体力に

も優れていることが大きな特徴である．また，これらの身体的な特徴と同時に，「友だちと仲が良い」「グループ行動が得意」「家族を大切にする」ということから，社会性の発達も順調である．

そして性格的には「我慢強い」「優しい性格」「色々と興味をもつ」好奇心も旺盛である．しかし「飽きっぽい」という一面も見せ，「虫や動物が好き」「森や川が好き」で自然を愛し，「競争心が少ない」などの平和的な特徴をもつ子ども達である．これらの評定点はいずれも平均で 2.5 水準を越えている行動特性である．またこれらの特性は因子分析結果として第 1 因子に集中して高い負荷を示した行動特性でもあった．これらの印象からはムラブリの子どもは，Bernatzik が記述したような，陰鬱で退嬰的で人類史上で最も未開の民族などという評価は，ムラブリの将来に著しい偏見を植え付けた明確に否定したいものである．

## 謝辞

調査に協力いただいたタイ王国ナーン県ウィアンサー郡メーカニン行政区ファイユアック村のムラブリのみなさんをはじめとして，（前）タイ国立山地民博物館のタウォーンフーファン氏，ソムキアットチャムロン氏，（前）内務省地方行政区管理組織幼児開発センターのパーウィダーゲオサイ先生，山岳地域の移動，輸送をお願いしたアーノンチンアーリ氏，カセムプティマー氏，現地における安全確保をお手伝いいただいた日本領事館（チェンマイ）の宮田祥克氏，翻訳を支援していただいたイソアパコーン女史，ムラブリ語の通訳をお手伝いいただいたプーファー地区ムラブリ生活協同組合のナンティヤードーイサック女史，ジャルーンセンソン氏，記録補助をお願いしたクリッサナーサーラオ女史，データ管理をお願いしたスィワロチャープラディット女史，連絡調整を支援していただいたバンコク在住の門田章氏に深謝いたします．

## 引用文献

[1] 大澤清二．人類史から見た「身体の使い方」．子どもと発育発達，2021，19，2，pp.101-109.

[2] 大澤清二　他．狩猟採集民ムラブリの子どもの遊びに関する記述的研究，発育発達研究，2015，66，pp.1-15.

[3] クーン C.S.，平野温美，鳴島史之訳．世界の狩猟民．法政大学出版局，2008，p.ix.
Coon, Carleton S. The Hunting Peoples, Atlantic Monthly Press, Boston, 1971, p.28, 464.

[4] Shimoda, Atsuko et al. Construction of a behavioral rating scale for children of the hunter-gatherer Mlabri: A quantitative reevaluation of behavioral characteristics as records in Bernazik H.A.'s ethnography of hill tribes in Indochine. Int. J. Hum. Cult. Stud. 2023, 33, pp.320-329.

[5] Pookajorn, Surin et al.(eds.) The Phi Tong Luang (Mlabri): A Hunter-Gatherer Group in Thailand, Odeon Store, Bangkok, 1992, p.204(shelter, pp.180-184).

[6] Trier, Jesper. Invoking The Spirits: Fieldwork on the Material and Spiritual Life of the Hunter-Gatherers Mlabri in NorthernThailand, Jutland Archaeological Society, 2008, p.325.

[7] Bernatzik, Hugo A.　[The spirit of the yellow leaves] Die Geister der gelben Blätter: Forschungsreisen in Hinterindien, Munich, F. Bruckmann Verlag, 1938, 240p. (in German).
(in English translation by Dickes, Ernest Walter, The spirit of the yellow leaves, London, Robert Hale Limited, 1958, 222p.)
(ベルナツィーク著．大林太良訳．『ピー・トング・ルアング族民族誌（付録）』黄色い葉の妖精：インドシナ山岳民族誌＜東洋文庫＞．平凡社，1968，pp.273-336)

[8] Ohsawa, S et al. Field Notes on the Dietary Habits of the Mlabri Hunter-Gatherers in Thailand, International Journal of Human Culture Studies, 24, 2014, pp.234-244.

[9] 大澤清二　他．狩猟採集民ムラブリの握力の発達に関する研究. 発育発達研究, 81, 2018a, pp.1-9.

[10] 大澤清二　他．　狩猟採集民ムラブリの体重，座高および長い発育期と生涯を 2 期に分ける BMI の特徴について．発育発達研究．（81），2018b，pp.21-31.

[11] 大澤清二　他．狩猟採集民の研究から子どもの遊びの原型を求めて．子どもと発育発達．19（1），2021，pp.74-79.
[12] Ohsawa, S. et al. Is the “Adolescent Growth Spurt in Body Height,” an Established Theory of Growth in the 20th Century, a Universal Phenomenon among Humans?: Through Observations of Hunter-Gatherers Moken (Salon) and Mlabri (Phii ton luang), International Journal of Human Culture Studies, 2022, 32, pp.31-45.
[13] 岩田慶治．東南アジアの少数民族，NHK ブックス，1971，pp.64-71.

**付記**

本研究は，JSPS 科研費 19H01612, 18H00967, 23K25610 の助成を受けたものです．

**Abstract**

We provided a quantitative description of the behavioral characteristics of Mlabri children from the hunter-gatherer community. The behavioral evaluation scale was developed based on Bernatzik's ethnography and 38 items selected. The evaluators were 48 adults (19 Mlabri, 8 Hmong, 14 Thai, 7 Mlabri researchers) who had observed the behavior of Mlabri children over a long period. These ratings were factor analyzed to extract five main factors that could be reasonably interpreted. According to the results, Mlabri children excelled in gross motor skills, fine motor skills such as dexterity, and defensive physical abilities. Furthermore, they received high evaluations related to social development. In terms of personality, they were characterized as “patient” “kind,” and “interested in various things.” On the other hand, they also showed a tendency to get bored easily, and it became clear that they loved nature, liking insects and animals and liking forests and rivers, and had peaceful characteristics such as “not being competitive.” These were also behavioral characteristics that showed a high load on the first factor. All of these characteristics received high scores of 2.5 or higher (median score: 3). It is clear that the Mlabri children are not the regressive and ignorant savages described by Bernatzik.

（受付日：2025 年 5 月 25 日，受理日：2025 年 6 月 17 日）

**下田　敦子（しもだ　あつこ）**
現職：大妻女子大学人間生活文化研究所 准教授，同博物館併任
博物館学芸員養成課程担当

プロフィール：
博士（生活科学）
東南アジア狩猟採集民社会や山岳地域農耕社会の諸民族を対象にして，主として伝統衣服製作技術の伝承過程，人の発育，発達に伴う技術習得課程の研究を行っている．現在「項目反応理論の応用による民族服製作技術文化保存のための最適学習過程の探究（科研費基盤研究（B）研究代表者）」を遂行中．
故近藤四郎先生（元京大霊長類研究所長）の下で民族学を，大澤清二先生（大妻女子大学名誉教授）に生物統計学とフィールド調査の訓練を受けた．著書に，

- Shimoda, Atsuko Development of a Methodology for Optimizing the Oral Transmission of Traditional Clothes: Making Techniques in a Preliterate Society. Myanmar Book Center Co., Ltd., 2019, 228p.
- 下田敦子，無文字社会における染織技術の伝承ータイ北部山岳民族カレン人集落における 16 年間フィールドサーベイの記録から．家政教育社，2015，238p.　がある．

主な研究論文：
意識，行動評価尺度に関する論文：

- Shimoda, Atsuko et al. Construction of a behavioral rating scale for children of the hunter-gatherer Mlabri: A quantitative reevaluation of behavioral characteristics as records in Bernazik H.A.'s ethnography of hill tribes in Indochine. Int. J. Hum. Cult. Stud. 2023, 33, pp.320-329.
- Atsuko Shimoda, Seiji Ohsawa, Perception of neck ring wear using SD Method. Int. J. Hum. Cult. Stud. 2017, 27, pp.638-644.
- 下田敦子, 大澤清二, カヤン女性の首輪による身体変工の美醜に関する計量的研究. 人間生活文化研究, 2017，27，pp.610-620.

身体技術伝承に関する論文

- 下田敦子，身体が介在するヒトと道具とのかかわり．子どもと発育発達，2022，20（1），pp.2-4.
- 下田敦子, 変貌する社会の身体～身体文化としての衣服製作技術～. 子どもと発育発達, 2021, 19 (2), pp.129-136.
- 下田敦子，大澤清二，タンナイン，無文字社会（カヤン社会）における原始機を用いた民族衣服製作技術の学習順序性の研究ー身体技術による伝承方法の再構成ー．発育発達研究，2022，94，pp.27-44
- 下田敦子，身体技術としての衣服製作技術を伝承するためのデータ化と解析～カレン民族服の製織過程を最適化する～．子どもと発育発達，2020，17（4）pp.256-263.

発育発達に関する論文：

- 大澤清二，下田敦子，シスコンタミットサターバン，プラディットナリット，
思春期の身長発育スパートが見られないムラブリ人について．発育発達研究，2018，80，pp.30-38.
- 大澤清二，下田敦子，シスコンタミットサターバン，プラディットナリット，
狩猟採集民ムラブリの握力の発達に関する研究．発育発達研究，2018，81，pp.1-9.
- 大澤清二，下田敦子，シスコンタミットサターバン，プラディットナリット，
狩猟採集民ムラブリの体重，座高および長い発育期と生涯を 2 期に分ける BMI の特徴について．発育発達研究，2018，81，pp.21-31.
- 下田敦子，生涯にわたる首輪装着がカヤン女性の首の長さをどのように変えるか：いわゆる首長族，カヤン女性の幼児期から 70 歳までの首の長さの年齢変化について．発育発達研究，2018，81，pp.10-20.